




iDRAC サービスモジュール 2.4 インストールガイド



メモ、注意、警告

-  **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2016 Dell Inc. 無断転載を禁じます。この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell、および Dell のロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

目次

1 はじめに.....	6
本リリースの新機能.....	6
iDRAC サービスモジュール監視機能.....	6
オペレーティングシステム情報.....	6
オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション.....	7
自動システムリカバリ機能.....	7
Windows Management Instrumentation プロバイダ.....	7
自動テクニカルサポートレポート収集.....	7
NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備.....	8
リモート iDRAC ハードリセット.....	8
ホスト OS (実験的機能) 経由の iDRAC アクセス.....	8
iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート.....	8
対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス.....	9
Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存.....	10
ソフトウェア可用性.....	10
iDRAC サービスモジュールのダウンロード.....	10
デルサポートサイトからの文書へのアクセス.....	10
ソフトウェアライセンス契約.....	11
その他の必要マニュアル.....	11
2 インストール前のセットアップ.....	12
インストール要件.....	12
対応オペレーティングシステム.....	12
対応プラットフォーム.....	13
システム要件.....	14
3 Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	15
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	15
サイレントインストール.....	16
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更.....	17
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復.....	18
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	18
製品 ID を使用した無人アンインストール.....	18
追加 / 削除機能を使用したアンインストール.....	18
4 対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	19
Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件.....	19
Linux インストールの依存性.....	19
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	20
サイレントインストール.....	21



Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	21
アンインストールスクリプトを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	21
RPM コマンドを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	21
5 VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	22
vSphere CLI の使用.....	22
VMware vSphere Management Assistant の使用.....	23
VMware Update Manager (VUM) の使用.....	23
Power CLI の使用.....	24
6 Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	25
実行中システムにおける Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	25
XenServer インストール中における Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	25
7 iDRAC サービスモジュールの設定.....	27
iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定.....	27
RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	27
WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	28
8 よくあるお問い合わせ (FAQ)	29
iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、Open Manage Server Administrator をアンインストールする必要がありますか?.....	29
システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされていることを確認する方法を教えてください。.....	29
システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。.....	29
iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許可レベルは何ですか?.....	29
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このサーバーはサポートされていません というエラーメッセージが表示されます。対応サーバーの詳細について『ユーザーズガイド』を参照した後は、どうすればよいですか?.....	30
USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは OS to iDRAC パススルーチャネルを使用して iDRAC と通信できません というメッセージが OS ログに表示されます。なぜですか?.....	30
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラーメッセージが表示されます。.....	30
リモート iDRAC ハードリセット機能を使用して iDRAC をリセットしましたが、IPMI ドライブが応答せず、トラブルシューティングできません。.....	31
複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか?.....	31
Linux オペレーティングシステムでアラートを送信するために iDRAC サービスモジュールで設定されているデフォルトの SNMP プロトコルは何ですか?.....	31
SMUX がシステムでサポートされていません。アラートを送信するためにはどのプロトコルを設定する必要がありますでしょうか?.....	31
Agent-x プロトコルを使用してデフォルトでアラートを送信するよう設定するには、iDRAC サービスモジュールをどのように設定しますか?.....	32
Linux のインストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムは何がありますか?.....	32



Windows イベント ビューアにカスタムフォルダを作成しましたが、LC ログがカスタムフォルダに複製されていません。ここで LC ログを複製するにはどうすればよいですか?..... 32

iDRAC サービスモジュールのインストール中に、グラフィカルユーザーインターフェースからカスタムインストールオプションを選択して、ある機能を無効化したのですが、その機能を他のインターフェースから有効化することができません。この機能を再び有効化するにはどうすればよいですか?..... 32

9 Linux インストーラパッケージ..... 33



はじめに

本ガイドは、サポートされるオペレーティングシステムで iDRAC サービスモジュールをインストールする方法についての情報とステップバイステップ手順を説明します。

Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) サービスモジュールは、第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバーにインストールすることができる、オプションの軽量ソフトウェアアプリケーションです。iDRAC サービスモジュールは、iDRAC インタフェース (グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI)、RACADM CLI、および Web Service Management (WSMAN)) を追加のモニタデータで補完します。モジュールの機能は、インストールされる機能、およびお使いの環境固有の統合ニーズに応じて、対応オペレーティングシステム上で設定することができます。

iDRAC サービスモジュールアーキテクチャは IP ソケット通信を使用し、追加のシステム管理データ (OS/ デバイスドライバ) を iDRAC に提供します。また、OS 標準インタフェースを介したシステム管理データへのアクセスを持つ 1 対多コンソールも提供します。

本リリースの新機能

- ・ 第 13 世代の Dell PowerEdge サーバのサポート。対応プラットフォームのリストは、「[対応プラットフォーム](#)」を参照してください。
- ・ Microsoft Windows Server 2016 および Microsoft Windows Nano オペレーティングシステムのサポート
- ・ 帯域内 SNMP アラートを Agent-x を介して設定するようサポート

iDRAC サービスモジュール監視機能


次のサービスが提供されます。

- ・ [OS 情報](#)
- ・ [Lifecycle Controller ログのオペレーティングシステムへの複製](#)
- ・ [自動システムリカバリ](#)
- ・ [ストレージデータを含む Windows Management Instrumentation プロバイダ](#)
- ・ [自動テクニカルサポートレポート収集](#)
- ・ [NVMe SSD デバイスの取り外し準備](#)
- ・ [リモート iDRAC ハードリセット](#)
- ・ [ホスト OS \(実験的機能\) 経由の iDRAC アクセス](#)
- ・ [iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート](#)

オペレーティングシステム情報

Server Administrator は現在、オペレーティングシステム情報およびホスト名を iDRAC と共有しています。iDRAC サービスモジュールは、ホスト OS 名、サーバーホスト IP アドレス情報、OS バージョン、完全修飾ドメイン名 (FQDN) といった同様の情報を iDRAC に提供します。また、ホスト OS 上のネットワークインタフェースも表示されます。このモニタ機能はデフォルトで有効で、Server Administrator がホスト OS にインストールされていても使用することができます。

iDRAC サービスモジュール 2.4 を開始すると、VLAN、IPV6 ポリシーテーブル、またはそのような情報を、ブラウザ用の Redfish クライアントプラグインを介して表示することもできます。


 **メモ: Redfish クライアントを使用して情報を表示するために必要な iDRAC の最小ファームウェアバージョンは 2.30.30.30 です。**


オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション

Lifecycle Controller (LC) のログを OS ログに複製します。ターゲットとしての OS ログオプションを持つすべてのイベント (アラートページ、または同等の RACADM / WSMAN インタフェース内) が、iDRAC サービスモジュールを使用して OS ログ内に複製されます。このプロセスは、Server Administrator によって実行されるシステムイベントログ (SEL) レプリケーションに似ています。

OS ログに含まれる一連のデフォルトのログは、SNMP トラップ/アラート用に設定されるログと同じです。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後に LC ログに記録されるイベントのみが OS ログに複製されます。Server Administrator がインストールされている場合は、OS ログ内での重複 SEL エントリを避けるため、モニタ機能が無効になります。

iDRAC サービスモジュール 2.1 以降、LC ログを複製する場所をカスタマイズできるようになりました。デフォルトで、LC ログは、Windows イベントビューアの **Windows ログ** 内にある **システム** グループに複製されます。LC ログは既存グループに複製する、または Windows イベントビューアの **アプリケーション** と **サービスログ** フォルダ内に新しいフォルダを作成することができます。

 **メモ: LC ログを複製する場所を選択できるのは、iDRAC サービスモジュールのカスタムインストール中、または iDRAC サービスモジュールの変更中のみです。**

 **メモ: iDRAC サービスモジュールの LCL ログのソース名は、iDRAC サービスモジュール から Lifecycle Controller ログに変更されました。**

自動システムリカバリ機能

自動システムリカバリ機能は、ハードウェア障害発生時にサーバーをリセットするために使用されるハードウェアベースのタイマーで、再起動、パワーサイクル、指定時間経過後の電源オフなどの自動システムリカバリ操作を実行することができます。この機能が使用できるのは、オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーが無効になっているときだけです。Server Administrator がインストールされている場合は、重複ウォッチドッグタイマーを避けるためにモニタ機能が無効になります。


Windows Management Instrumentation プロバイダ

iDRAC サービスモジュールと共に提供される Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダは、Windows Management Instrumentation (WMI) を介してハードウェアデータを公開します。WMI は、オペレーティングシステムインタフェースを提供する Windows ドライバモデルに対する拡張の一式で、これを介して計装コンポーネントが情報と通知を提供します。WMI は、サーバーハードウェア、オペレーティングシステム、およびアプリケーションを管理するための Distributed Management Task Force (DMTF) からの Web-Based Enterprise Management (WBEM) および Common Information Model (CIM) 規格の Microsoft の実装です。WMI プロバイダは、Microsoft System Center などのシステム管理コンソールとの統合に役立ち、Microsoft Windows サーバーを管理するためのスクリプト記述を可能にします。


自動テクニカルサポートレポート収集

iDRAC のテクニカルサポートレポート (TSR) 機能は、ハードウェア、OS、および関連するアプリケーションデータについての情報を収集し、それを圧縮します。現在、TSR を生成するには OS Collector ツールを手動で実行する必要がありますが、iDRAC サービスモジュール 2.0 以降のバージョンを使用することにより、OS Collector ツールが関連する OS およびハードウェア情報を自動的に収集します。自動サポートログ収集には、TSR を使用した OS およびアプリケーション情報収集が含まれます。

収集プロセスが自動化されるため、iDRAC サービスモジュールを使用することによってテクニカルサポートレポートを収集するための手順の数が削減されます。

 **メモ: この機能は、対応 Microsoft または Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムでの iDRAC サービスモジュール 2.0 以降のバージョンのインストール時に、デフォルトで使用可能になります。この機能を無効にすることはできません。**



 **メモ:** CentOS では、自動テクニカルサポートレポート収集機能はサポートされていません。

NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備

Non-Volatile Memory Express (NVMe) Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) ソリッドステートドライブ (SSD) は、システムをシャットダウンまたは再起動することなく取り外すことができます。デバイスを取り外しているときは、データの損失を防ぐために、そのデバイスに関連付けられているすべてのアクティビティを停止する必要があります。データの損失を防ぐには、すべてのデバイスに関連付けられたバックグラウンドアクティビティを停止する取り外し準備オプションを使用してください。その後、NVMe PCIe SSD を物理的に取り外すことができます。

リモート iDRAC ハードリセット

iDRAC を使用して、重要なシステムハードウェア、ファームウェア、またはソフトウェアの問題について対応サーバーを監視することができます。時折、iDRAC はさまざまな理由で応答しなくなることがあります。このような場合は、サーバーをソケットから引き抜いてオフにする必要がある場合があります。その後、iDRAC をリセットすることができます。

リモート iDRAC ハードリセット機能を使用すれば、iDRAC が応答しなくなったときにはいつでも、サーバーをシャットダウンする必要なくリモート iDRAC リセット操作を実行することができます。iDRAC をリモートにリセットするには、ホスト OS での管理者権限を持っていることを確認してください。リモート iDRAC ハードリセット機能はデフォルトで有効となっています。

ホスト OS (実験的機能) 経由の iDRAC アクセス

デルの PowerEdge サーバーを使用すると、iDRAC 専用ネットワークを構成することにより、iDRAC を介したデバイスのハードウェアまたはファームウェアの管理が可能になります。専用ネットワークポート経由で GUI、WSMAN、RACADM および Redfish クライアントなどの iDRAC インタフェースにアクセスすることができます。


ハードウェアまたはファームウェアを管理するための前提条件は、デバイスおよびサポートされている iDRAC インターフェイス間に専用接続を設けることです。ホスト OS 機能を介した iDRAC アクセスの使用により、デバイスと iDRAC 専用ネットワーク間に接続に関わらず、OS IP またはホストから iDRAC インタフェースに接続することができます。この機能では、iDRAC がサーバーに接続されていなくても、ハードウェアまたはファームウェアを監視することが可能になります。


 **メモ:** この機能を設定した後、URL に `login.html` を追加してオペレーティングシステムから iDRAC にアクセスします。たとえば、`https:// <IP address>:<listen port number>/login.html` のようにします。


iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート

帯域外サーバー管理および監視ツールである iDRAC を使用して、SNMP トラップ/アラートをログに記録することができます。ただし、帯域内エージェントを使用するホスト OS システムマネージメントの観点では、iDRAC から受信するトラップよりもホスト OS から受信される SNMP アラートが優先されます。SNMP アラートが iDRAC から受信された場合、アラートはシステム IP からではなく iDRAC IP からのものであるため、このアラートのソースを識別することが難しくなります。

iDRAC サービスモジュール 2.4 を使用することにより、iDRAC によって生成されるアラートに類似する SNMP アラートをホスト OS から受信できます。

 **メモ:** この機能はデフォルトで無効になっています。帯域内 SNMP アラートメカニズムは iDRAC SNMP アラートメカニズムと共存可能ではありますが、記録されたログには両方のソースからの重複した SNMP アラートが含まれる場合があります。両方を使用する代わりに、帯域内または帯域外のオプションのいずれかを使用することが推奨されます。

 **メモ:** 帯域内 SNMP 機能は、バージョンが最小 **2.30.30.30** の iDRAC ファームウェアを持つ第 **12** 世代以降のデル PowerEdge Server で使用することができます。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールのカスタムインストール中に帯域内 SNMP アラート機能を有効にする場合、デフォルトで Lifecycle ログレプリケーション機能が有効です。

対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス


次のリストは、対応機能とオペレーティングシステムのリストです。

表 1. 対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス

世代	機能	オペレーティングシステム			
		Microsoft Windows (HyperV システムを含む)	Linux	仮想化 (VMware ESXi)	Citrix XenServer
第 12 世代および第 13 世代	OS 情報の共有	はい	はい	はい	はい
第 12 世代および第 13 世代	LC ログレプリケーション	はい	はい	はい	はい
第 12 世代および第 13 世代	自動システムリカバリ/ウォッチドッグ	はい	はい	はい	はい
第 13 世代	Windows Management Instrumentation プロバイダ	はい	いいえ	いいえ	はい
第 13 世代	iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外し準備	はい	はい	はい*	はい
第 13 世代	自動テクニカルサポートレポート OS 収集	はい	はい	いいえ	はい
第 13 世代	リモート iDRAC ハードリセット	はい	はい	はい	はい
第 12 世代および第 13 世代	ホスト OS (実験的機能) 経由の iDRAC アクセス	はい	はい	いいえ	はい
第 12 世代および第 13 世代	iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート	はい	はい	はい	はい
第 12 世代および第 13 世代	Redfish クライアントを介したネットワークインタフェース監視のサポート	はい	はい	はい	はい

* — iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外し準備機能がサポートされているのは VMware ESXi 6.0 のみであり、その他の VMware ESX オペレーティングシステムバージョンではサポートされていません。

 **メモ:** Windows Management Instrumentation プロバイダ、iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外し準備、テクニカルサポートのレポート OS 収集の自動化、およびリモート iDRAC ハードリセットなどの機能は、最小ファームウェアバージョンが 2.00.00.00 以降の第 13 世代の Dell PowerEdge サーバのみでサポートされています。

 **メモ: iDRAC サービスモジュールによってサポートされているプラットフォームのリストに関しては、「[対応オペレーティングシステム](#)」を参照してください。**

Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存

システム内に、Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの両方を共存させることができます。iDRAC サービスモジュールのインストール中にモニタ機能を有効にした場合、インストールが完了した後に iDRAC サービスモジュールが Server Administrator の存在を検知し、重複しているモニタ機能一式を無効にします。iDRAC サービスモジュールは Server Administrator とその機能をポーリングし続けます。Server Administrator が停止した場合は、常にそれぞれの Server Administrator サービスモジュールが有効になります。

ソフトウェア可用性

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、次から利用できます。

- ・ 『Systems Management Tools and Documentation (SMTD)』 DVD
- ・ サポートサイト — dell.com/support

iDRAC サービスモジュールのダウンロード

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、dell.com/support/home からダウンロードできます。

デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- ・ 次のリンクを使用します。
 - すべての Enterprise システム管理マニュアル — Dell.com/SoftwareSecurityManuals
 - OpenManage マニュアル — Dell.com/OpenManageManuals
 - リモートエンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/esmmanuals
 - iDRAC および Lifecycle Controller マニュアル - Dell.com/idracmanuals
 - OpenManage Connection エンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
 - Serviceability Tool マニュアル — Dell.com/ServiceabilityTools
 - Client Command Suite システム管理マニュアル — Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals
- ・ Dell サポートサイトから、
 - a. Dell.com/Support/Home に移動します。
 - b. **製品の選択**セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ**をクリックします。
 - c. **ソフトウェアとセキュリティ**グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - **エンタープライズシステム管理**
 - **リモートエンタープライズシステム管理**
 - **Serviceability Tools**
 - **Dell Client Command Suite**
 - **接続クライアントシステム管理**
 - d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- ・ 検索エンジンを使用します。
 - 検索ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

ソフトウェアライセンス契約

iDRAC サービスモジュールのサポートされるバージョンのオペレーティングシステム向けソフトウェアライセンスは、インストーラに含まれています。license_agreement.txt ファイルをお読みください。メディア上にファイルをインストールまたはコピーすることにより、license_agreement.txt ファイルの条件に同意したものと見なされます。

その他の必要マニュアル

このガイド以外にも、デルサポートサイト dell.com/support/home で入手できる次のガイドにアクセスできます。

- ・ 『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』には、iDRAC の設定と使用についての詳細が記載されています。
- ・ 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』では、Racadm コマンドラインユーティリティの使い方についての情報を提供します。
- ・ 『Dell Update Packages ユーザーズガイド』は、システムアップデート対策の一環としての Dell Update Packages の入手方法と使い方を説明しています。
- ・ 『Dell Event Messages Reference ガイド』には、システムコンポーネントを監視するファームウェアおよびその他エージェントによって生成されるイベントとエラーについての情報を提供します。
- ・ 『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド』は、Management (WS-Man) Management プロトコルのために Web サービスを活用するための情報と例を提供します。



インストール前のセットアップ

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、次の条件を確認します。

- ・ 第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバ。対応プラットフォームのリストに関しては、「[対応プラットフォーム](#)」を参照してください。
- ・ 最小ファームウェアバージョン — iDRAC7 については 1.57.57 以降、iDRAC8 については 2.00.00.00 以降。
 - **メモ: iDRAC7 1.5x.5x に iDRAC サービスモジュール 2.0 以降をインストールする場合、iDRAC サービスモジュール 2.0 以降のバージョンによって提供される新機能は使用できませんが、iDRAC サービスモジュール 1.0 の機能を使用することができます。**
- ・ システム管理者特権。
- ・ オペレーティングシステムのインストール手順をお読みください。
- ・ 該当するリリースノートファイル、および『システムソフトウェアサポートマトリクス』をお読みください。
- ・ インストール要件を読み、ご使用のシステムが最小要件を満たしていることを確認してください。
- ・ iDRAC サービスモジュールアプリケーションをインストールする前にシステムで実行されているすべてのアプリケーションを終了してください。

インストール要件

本項では、iDRAC サービスモジュールの一般的な要件について説明し、対応オペレーティングシステムおよび基本的なシステム要件についての情報を提供します。

Windows

- ・ Microsoft Windows Server 2008 x64 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、Windows 2012、Windows 2012 R2、Windows Server 2016、および Windows Nano オペレーティングシステム。

Linux

- ・ Red Hat Enterprise Linux 6.7、Red Hat Enterprise Linux 7.2、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4、SUSE Linux Enterprise Server 12 SP1、SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2 オペレーティングシステム。

VMware ESXi

- ・ VMware ESXi 5.5 U3、VMware ESXi 6.0 U1

Citrix XenServer

- ・ Citrix XenServer 6.5 および Citrix XenServer 7.0。

■ **メモ:** オペレーティングシステム固有の必要条件がインストール手順として記載されています。

■ **メモ:** iDRAC サービスモジュールは、ユーザーインターフェースを使用してインストールできます。このインストーラはサイレントインストール方法もサポートしています。

対応オペレーティングシステム

iDRAC サービスモジュールのサポートは、次の 64 ビットオペレーティングシステムに対応しています。

- ・ Microsoft Windows Server 2008 SP 2 (デルの第 12 世代 PowerEdge サーバーのみ)
- ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1
- ・ Microsoft Windows 2012
- ・ Microsoft Windows 2012 R2
- ・ Microsoft Windows Server 2016
- ・ Microsoft Windows Nano
- ・ Red Hat Enterprise Linux 6.7
- ・ Red Hat Enterprise Linux 7.2
- ・ SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4
- ・ SUSE Linux Enterprise Server 12 SP1
- ・ SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2
- ・ VMware ESXi 5.5 U3
- ・ VMware ESXi 6.0 U1
- ・ Citrix XenServer 6.5
- ・ Citrix XenServer 7.0
- ・ CentOS 6.5*
- ・ CentOS 6.7*
- ・ CentOS 7*
- ・ CentOS 7.1*
- ・ CentOS 7.3*

* — iDRAC サービスモジュールは、リストされている任意の CentOS バージョンにインストールすることができます。デルは、CentOS に対しては限定されたサポートしか提供しません。CentOS におけるサポートの詳細に関しては、CentOS コミュニティにお問い合わせください。

対応オペレーティングシステムについての情報は、dell.com/support/home で『システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

対応プラットフォーム

iDRAC サービスモジュール 2.4 は、第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバをサポートします。サーバはタイプ、パフォーマンス、世代、および使用されているプロセッサによって分類されます。

表 2. サーバの分類

サーバタイプ	詳細		
	全体的なパフォーマンス	世代	プロセッサ
ラック = R	1~5 — ローエンドサーバ	2 — 第 12 世代	0 — Intel プロセッサ
タワー = T	5~10 — ハイエンドサーバ	3 — 第 13 世代	5 — AMD プロセッサ
モジュラー = M			

たとえば、**M820** は、Intel プロセッサを使用するハイエンドの第 12 世代 Dell PowerEdge モジュラーサーバです。

次に、iDRAC サービスモジュールでサポートされているプラットフォームのリストを示します。



表 3. 対応プラットフォーム

第 13 世代 Dell PowerEdge サーバー	第 12 世代 Dell PowerEdge サーバー
R530、R530 XD、R730、R730 XD、R630、T630、R230、R330、R430、R830、R930、T130、T330、T430、M630、M830、FC430、FC630、FC830、C4130、C6320、R7910	M820、M620、M520、M420、R220、R320、R420、R520、R620、R720、R720 XD、R820、R920、T320、T420、T620、FM120

システム要件

- ・ 対応オペレーティングシステムのいずれか。対応オペレーティングシステムの詳細に関しては、[対応オペレーティングシステム](#)を参照してください。
- ・ 最低 2GB の RAM。
- ・ 最低 512MB の空きハードディスクドライブ容量。
- ・ システム管理者権限。
- ・ TCP/IPv 4 接続。


Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール


iDRAC サービスモジュールは、デフォルトでサポートされているオペレーティングシステムにすべての機能をインストールし、すべての機能を有効にします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール


サポートされているオペレーティングシステム向けの iDRAC サービスモジュールインストーラは、『Systems Management Tools and Documentation』DVD に収録されています。また、dell.com/support/home から iDRAC サービスモジュールインストーラをダウンロードすることもできます。適切なコマンドラインスイッチを使用して、手動または自動インストールのいずれかの操作を実行することができます。iDRAC サービスモジュールは、OpenManage Essentials (OME) などのコンソールを使用した **プッシュ** メカニズムを使ってインストールできます。

1. **SYSMGMT** → **iSM** → **Windows** と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。
iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
ライセンス契約が表示されます。
3. ソフトウェアライセンス契約を読んで、**ライセンス契約の条件に同意します** を選択してから、**次へ** をクリックします。
4. 次のオプションから **セットアップタイプ** を選択し、**次へ** をクリックします。
 - ・ **標準** - すべてのプログラム機能がインストールされます (必要なディスク容量は最大)。
 - ・ **カスタム** - インストールするプログラム機能と場所を選択することによって、インストールをカスタマイズします (上級ユーザー推奨)。
利用できるオプションは次のとおりです。
 - オペレーティングシステム情報
 - 自動システム回復
 - Lifecycle ログレプリケーション
 - Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダ
 - ホスト OS を介した iDRAC アクセス
 - iDRAC ハードリセット


 **メモ:** 次の手順は、セットアップタイプ ウィンドウで **カスタム オプション** を選択した場合のみに該当します。

 **メモ:** 帯域内 SNMP トラップ および ホスト OS を介した iDRAC アクセス 機能はデフォルトで無効です。

- a. インストールするプログラムの機能を選択して、**次へ** をクリックします。
Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウが表示されます。
- b. LC ログを複製する場所を指定します。デフォルトでは、**標準 (Windows ログ / システム)** オプションが選択されており、LC ログは **イベント ビューア** の **Windows ログ** フォルダにある **システム グループ** 内に複製されます。**次へ** をクリックします。

 **メモ:** Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウで **カスタム オプション** を選択することによってアプリケーションとサービス ログ フォルダ内に **カスタムグループ** を作成することもできます。

5. Host OS 機能を介した iDRAC アクセスによって使用される一意のポート番号を入力します。

 **メモ:** 1024 ~ 65535 の範囲内でポート番号を入力してください。


 **メモ:**

入力しない場合、ポート番号1266 か、以前に設定されたポート（ある場合）がデフォルトで割り当てられます。

プログラムのインストール準備完了が表示されます。

6. インストールをクリックして、インストールを続行します。

戻るをクリックしてプリファランスを変更することもできます。

 **メモ:** OS を OS ログの iDRAC パススルーチャンネルに設定して iDRAC との通信を確立していても、「iDRAC サービスモジュールと iDRAC との間の通信が確立できませんでした。最新の『iDRAC サービスモジュールインストールガイド』を参照してください」という意味のメッセージが表示される場合があります。トラブルシューティングの詳細については、「[よくあるお問い合わせ \(FAQ\)](#)」を参照してください。

これで iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされました。

7. 終了をクリックします。

サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、インタラクティブなコンソールを使用せずにバックグラウンドのサイレントインストールでインストールすることができます。

- サイレントインストールを使用して iDRAC サービスモジュールをインストールするには、コマンドプロンプトに `msiexec /i iDRACSvcMod.msi /qn` と入力します。
- インストールログを生成するには、`msiexec /i iDRACSvcMod.msi /L*V <パス付きのログ名>` を入力します。
- LC ログを既存のグループ、またはカスタムフォルダに複製するには、`msiexec /i iDRACSvcMod.msi CP_LCLOG_VIEW="<既存のグループ名またはカスタムフォルダ名>"` を入力します。
- サイレントインストールを使用してホスト OS iDRAC 経由で iDRAC アクセスをインストールするには、「`msiexec /i <インストーラファイルの場所>/iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL=IBIA /qn`」と入力します。
- サポートされている言語でユーザーインターフェースを表示するには、`msiexec /i iDRACSvcMod.msi TRANSFORMS=<ロケール番号>.mst` を入力します。ここでのロケール番号は次のとおりです。

表 4. サイレントインストール

ロケール番号	言語
1031	ドイツ語
1033	英語 (米国)
1034	スペイン語
1036	フランス語
1041	日本語
2052	簡体字中国語

iDRAC サービスモジュールの Nano オペレーティングシステムへのインストール

iDRAC サービスモジュール 2.4 以降では、Nano オペレーティングシステムにサービスモジュールソフトウェアをインストールできます。Nano オペレーティングシステムは iDRAC サービスモジュールの一般的なタイプのインストールのみをサポートします。デフォルトでは、次の機能がインストールされており、インストールをカスタマイズするオプションはありません。

- [オペレーティングシステム情報](#)
- [ストレージデータを含む Windows Management Instrumentation プロバイダ](#)
- [自動システム回復](#)

- ・ [自動テクニカルサポートレポート収集](#)
- ・ [Lifecycle Controller ログのオペレーティングシステムへの複製](#)
- ・ [NVMe SSD デバイスの取り外し準備](#)

次の手順により、Nano オペレーティングシステムに iDRAC サービスモジュールをインストールします。

1. PowerShell コンソールを管理者として開き、iDRAC サービスモジュールのフォルダに移動します。
2. iDRAC サービスモジュールをインストールするには、Appx パッケージを iDRAC サービスモジュールのフォルダに追加する必要があります。Add-AppxPackage .\iDRACSvcMod.appx と入力します。
インストールプロセスが開始され、正常に完了します。
3. Get-AppxPackage コマンドを入力し、フォルダ内のパッケージの詳細を表示します。
パッケージの名前、発行元、バージョン、インストール場所、および関連情報などの詳細を表示できます。
4. iDRAC サービスモジュールサービスを開始します。net start "iDRAC Service Module" と入力します。ここで iDRAC Service Module はパッケージの名前です。
iDRAC サービスモジュールサービスが正常に開始されます。

Nano オペレーティングシステム上の iDRAC サービスモジュールのアンインストール

Nano オペレーティングシステム上の iDRAC サービスモジュールをアンインストールするには、iDRAC サービスモジュールサービスを停止する必要があります。


次の手順により、Nano オペレーティングシステム上の iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。


1. Get-AppxPackage コマンドを入力し、フォルダ内のパッケージの詳細を表示します。
パッケージの名前、発行元、バージョン、インストール場所、および関連情報などの詳細を表示できます。
2. iDRAC サービスモジュールサービスを停止するには、net stop "iDRAC Service Module" と入力します。ここで iDRAC Service Module はパッケージの名前です。
iDRAC サービスモジュールサービスが正常に停止します。
3. iDRAC サービスモジュールをアンインストールするには、Remove-AppxPackage <Full name of the package> と入力します。<Full name of the package> は、パッケージの詳細に **PackageFullName** として表示されます。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更

iDRAC サービスモジュールコンポーネントを変更するには、次の操作を実行します。

1. **SYSMGMT** → **iSM** → **Windows** と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。
iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザード が表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
3. **修正** を選択します。
4. 必要に応じて機能を有効化または無効化し、**次へ** をクリックします。
Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウが表示されます。
5. LC ログを複製する必要がある場所を指定します。デフォルトでは **標準 (Windows ログ / システム)** オプションが選択されており、LC ログは **イベント ビューア** の **Windows ログ** フォルダにある **システム** グループ内に複製されます。**次へ** をクリックします。

 **メモ: Lifecycle Controller ログレプリケーション** ウィンドウで **カスタム オプション** を選択することによってアプリケーションとサービス ログ フォルダ内に **カスタムグループ** を作成することもできます。


 **メモ:** 次のような状況では、システムを再起動する必要が生じる場合があります。


- ・ **標準 (Windows ログ / システム)** オプションと **カスタム オプション** を切り替えた場合。
- ・ ひとつのカスタムフォルダから別のフォルダに切り替えた場合。

インストールの **準備完了** 画面が表示されます。

6. Host OS 機能を介した iDRAC アクセスによって使用される一意のポート番号を入力します。



 メモ: 1024 ~ 65535 の範囲内でポート番号を入力してください。

 メモ: 入力しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート（ある場合）がデフォルトで割り当てられます。

7. 処理を続行するには **インストール** をクリックします。
戻る をクリックしてプリファランスを変更することもできます。

これで iDRAC サービスモジュールが正常に変更されました。

8. **終了** をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復

故障している、または機能しない iDRAC サービスモジュールコンポーネントを修復する場合は、次の手順を実行します。

1. **SYSMGMT** → **ISM** → **Windows** と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。
iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
3. **修復** を選択し、**次へ** をクリックします。
インストールの準備完了が表示されます。
4. 処理を続行するには **修復** をクリックします。
環境設定を変更するには、**戻る** をクリックします。

これで iDRAC サービスモジュールコンポーネントが正常に修復されました。

5. **終了** をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の 2 種類の方法でアンインストールできます。


- ・ [製品 ID を使用した無人アンインストール](#)
- ・ [追加 / 削除機能を使用したアンインストール](#)


製品 ID を使用した無人アンインストール

msiexec /x {4039071A-42CF-4CB0-954E-B03E3461F3BF} /qn と入力し、製品 ID を使用して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

追加 / 削除機能を使用したアンインストール

コントロールパネルの **追加** または **削除** オプションを使用して、iDRAC サービスモジュールをアンインストールできます。これを行うには、**スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムと機能** の順にクリックします。

 メモ: iDRACSvcMod.msi の実行後に **アンインストール** を選択してアンインストールすることもできます。

 メモ: **Windows イベント ビューア** の **Windows ログ** フォルダにある **Application** グループで、iDRAC サービスモジュールログを表示できます。


対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュール全体は1つの Red Hat Package Manager (RPM) にパッケージ化されています。パッケージはシェルスクリプトと一緒に表示され、インストール、アンインストール、または使用可能な機能の有効/無効を切り替えることができます。

Linux のインストーラは単一 rpm インストールであるため、細かいインストールサポートはありません。機能の有効/無効の切り替えは、スクリプト形式のインストールでのみ可能です。

 **メモ:** インストーラは、iDRAC サービスモジュール対応の **Red Hat Enterprise Linux 5、Red Hat Enterprise Linux 6、Red Hat Enterprise Linux 6.7、Red Hat Enterprise Linux 7、Red Hat Enterprise Linux 7.2、SUSE Linux Enterprise Server 11、SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4、SUSE Linux Enterprise Server 12 SP** オペレーティングシステムの 64 ビットバージョンすべてに使用できます。

 **メモ:** **Yellowdog Updater, Modified (YUM)、VMware Update Manager (VUM)** および **Citrix XenServer Supplemental Pack** などのリポジトリベースのインストールでは、デフォルトですべての機能が有効になっています。

 **メモ:** **CentOS** では、自動テクニカルサポートレポートの **OS ログ収集機能** はサポートされません。

Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件

対応 Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムに iDRAC サービスモジュールをインストールするには、`setup.sh` を実行します。

次のような基本的な機能要件を満たしていることを確認します。

- ・ USBNIC モード用の OS-to-iDRAC パススルー機能がデフォルトで有効になっている。無効になっている場合は、手動で有効にします。
- ・ IPv4 ネットワークスタックがホストオペレーティングシステムで有効になっている。
- ・ USB サブシステムが有効になっている。
- ・ `udev` が有効になっている。iDRAC サービスモジュールを自動で起動するために必要です。

iDRAC の詳細については、dell.com/support/home で最新の『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

Linux インストールの依存性

次は、インストールを完了するためにインストールする必要がある依存パッケージ / 実行可能ファイルのリストです。

表 5. Linux インストールの依存性

実行可能コマンド	パッケージ名
/sys	fileSystem
grep	grep
cut、cat、echo、pwd、	coreutils
lsusb	usbutils


find	findutils
シェルスクリプトコマンド	bash
ifconfig	net-tools
ping	lputils
chkconfig	RedHat Enterprise Linux <ul style="list-style-type: none"> ・ chkconfig SUSE Linux Enterprise Server <ul style="list-style-type: none"> ・ aaa_base
install_initd	RedHat Enterprise Linux <ul style="list-style-type: none"> ・ redhat-lsb-core SUSE Linux Enterprise Server <ul style="list-style-type: none"> ・ insserv
/etc/init.d/ipmi	OpenIPMI
Systemctl	systemd


Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

1. インストールできる機能が画面に表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。


- ・ [1] ウォッチドッグ Instrumentation Service。
- ・ [2] Lifecycle ログレプリケーション。
- ・ [3] オペレーティングシステム情報。
- ・ [4] ホスト OS を介した iDRAC アクセス。
- ・ [5] iDRAC ハードリセット。
- ・ [6] すべての機能。


2. 必要な機能をインストールするには、それぞれの機能の番号を入力します。

 **メモ:** コンマでインストールする機能の番号を区切ってください。


 **メモ:** 3 つすべての機能をインストールするには、すべての機能 オプションを選択します。

3. インストールを続行しない場合は、q と入力して終了します。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュール 2.4 以降では、インストール後に機能を変更することもできます。

 **メモ:** お使いの Linux オペレーティングシステムに iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを識別するには、`/etc/init.d/dcismeng status` コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストールされ実行されている場合は、実行中 状態が表示されます。

 **メモ:** `systemctl status dcismeng.service` コマンドの代わりに `init.d` コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが RedHat Enterprise Linux 7 または SUSE Linux Enterprise 12 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかチェックします。

 **メモ:**

ホスト OS を介した iDRAC アクセス機能をインストールした場合、1024 ~ 65535 の範囲内で固有のポート番号を指定する必要があります。指定しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート（ある場合）がデフォルトで割り当てられます。

サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、ユーザーコンソールなしでもバックグラウンドでサイレントにインストールできます。これは、パラメータに `setup.sh` を使って実行できます。

`setup.sh` を使用するために渡すことができるパラメータは、次の通りです。

表 6. サイレントインストール

パラメータ	説明
-h	ヘルプ： ヘルプを表示します
-l	インストール： 選択した機能をインストールして有効にします
-x	エクスプレス： すべての機能をインストールして有効にします
-d	削除： iDRAC サービスモジュールコンポーネントをアンインストールします
-w	自動システムリカバリ： 自動システムリカバリ計装サービスを有効にします
-l	LC ログ： Lifecycle ログレプリケーションを有効にします
-o	OS 情報： オペレーティングシステムの情報を有効にします
-a	自動開始： コンポーネントのインストール後にインストールされたサービスを開始します
-O	ホスト OS を介した iDRAC アクセス： ホスト OS 機能を使用して iDRAC アクセスを有効にします

Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の 2 種類の方法でアンインストールできます。

- ・ [アンインストールスクリプトを使用する](#)
- ・ [RPM コマンドを使用する](#)

アンインストールスクリプトを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールのアンインストールに使用するスクリプトは `dcism-setup.sh` です。シェルスクリプトを実行し、`d` を選択して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

RPM コマンドを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、RPM コマンド `rpm-e dcism` をコマンドラインに入力するとアンインストールできます。




VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール

一部のシステムでは、出荷時に VMware ESXi がインストールされています。これらのシステムのリストについては、dell.com/support/home で最新の『システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

iDRAC サービスモジュールは、VMware ESXi オペレーティングシステムを実行しているシステムでのインストール用の .zip ファイルとして提供されます。.zip ファイルは命名規則 **ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>i.zip** に従っています。ここで、<version> は対応 ESXi バージョンです。

対応 ESXi バージョンの zip ファイルは次のとおりです。

- ・ ESXi 5.1 の場合：ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-ESX51i.zip
- ・ ESXi 5.5 の場合：ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-ESX55i.zip
- ・ ESXi 6.0 の場合：ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-ESX60i.zip

 **メモ:** インストーラは、iDRAC サービスモジュール対応の **VMware ESXi 5.5 U3**、**VMware ESXi 6.0 U1**、および **VMware ESXi 6.0 U2** オペレーティングシステムの **64 ビットバージョンすべて**に使用できます。**ESX クラシック**はサポートされていません。

<http://vmwaredepot.dell.com/> から VMware vSphere コマンドラインインタフェース (vSphere CLI) をダウンロードして、Microsoft Windows または Linux システム上にインストールします。または、VMware vSphere Management Assistant (vMA) を ESXi ホストにインポートできます。

vSphere CLI の使用

vSphere CLI を使用して VMware ESXi に iDRAC サービスモジュールのソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。

1. ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>i.zip ファイルをシステムのディレクトリにコピーして解凍します。
2. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
3. vSphere CLI を Windows で使用している場合は、vSphere CLI ユーティリティをインストールしたディレクトリに移動します。


vSphere CLI を Linux で使用している場合は、どのディレクトリからでもコマンドを実行できます。

4. 次のコマンドを実行します。

VMware ESXi 5.1 の場合：`esxcli --server <IP Address of ESXi 5.1 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`。

VMware ESXi 5.5 の場合：`esxcli --server <IP Address of ESXi 5.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`。

VMware ESXi 6.0 の場合：`esxcli --server <IP Address of ESXi 6.0 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`。

 **メモ:** vSphere CLI を Linux で使用している場合、拡張子 **.pl** は必要ありません。

5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。
コマンド出力には、アップデートの成否が表示されます。
6. ESXi ホストシステムを再起動します。
インストールされた VIB の情報を入手または一覧表示するには、`esxcli-server<IP>software vib get` または `software vib list` を使用します。

VMware vSphere Management Assistant の使用

VMware vSphere Management Assistant を使用すると、管理者と開発者が ESX/ESXi システムを管理するためにスクリプトおよびエージェントを実行できます。詳細に関しては、vmware.com/support/developer/vima/ を参照してください。

1. システム管理者として vMA にログインし、プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
2. ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>i.zip ファイルを vMA 上のディレクトリにコピーして解凍します。
3. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
4. vMA で次のコマンドを実行します。
VMware ESXi 5.1 の場合：`esxcli --server <IP Address of ESXi 5.1 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`。

VMware ESXi 5.5 の場合：`esxcli --server <IP Address of ESXi 5.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`。

VMware ESXi 6.0 の場合：`esxcli --server <IP Address of ESXi 6.0 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`。
5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。
6. ESXi ホストシステムを再起動します。

上記の手順を完了した後で、次の手順を実行します。

1. **iDRAC サービスモジュール** を管理ステーションに別途インストールします。
2. iDRAC サービスモジュールのインストール後、サービスを有効にします。


VMware Update Manager (VUM) の使用


iDRAC サービスモジュールをインストールするには、VMware Update Manager (VUM) を使用します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに VMware vSphere 5.x、またはそれ以降のバージョン (vCenter サーバー、vSphere クライアント、および VMware vSphere Update Manager) をインストールします。
2. デスクトップで、VMware vSphere クライアント をダブルクリックして、vCenter サーバーにログインします。
3. vSphere クライアントホストを右クリックして、**新規データセンター** をクリックします。
4. **新規データセンター** を右クリックして、**ホストの追加** をクリックします。画面の表示に従って ESXi サーバーの情報を準備します。
5. 直前の手順で追加された ESXi ホストを右クリックして、**メンテナンスモード** をクリックします。
6. **プラグイン** から **プラグインの管理** → **VMware Update Manager のダウンロード** を選択します (正常にダウンロードされると、ステータスは有効になります)。指示に従って、VUM クライアントをインストールします。
7. ESXi ホストを選択します。 **Update Manager** → **管理者ビュー** → **パッチリポジトリ** → **パッチのインポート** をクリックし、画面の表示に従ってパッチを正常にアップロードします。
オフラインバンドルが表示されます。
8. **ベースラインおよびグループ** をクリックします。
9. **ベースラインタブ** から **作成** タブをクリックし、ベースライン名を指定してベースラインタイプとして **ホスト拡張** を選択します。
指示に従って残りを完了します。



10. 管理者ビュー をクリックします。
11. ベースラインへの追加 (アップロードされたパッチ名に対して) をクリックして、手順 8 で作成したベースライン名を選択します。
12. コンプライアンスビュー をクリックします。 Update Manager タブを選択します。添付 をクリックして手順 8 で作成した 拡張ベースライン を選択し、指示に従います。
13. スキャン をクリックして、パッチおよび拡張 を選択し (デフォルトで選択されない場合)、スキャン をクリックします。
14. ステージ をクリックし、作成したホスト拡張 を選択し、指示に従います。
15. ステージングが完了したら 修正 をクリックして、指示に従います。
iDRAC サービスモジュールのインストールが完了しました。
16. ホストを再起動します。

 **メモ: VMware Update Manager についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。**

 **メモ: iDRAC サービスモジュール を VUM リポジトリ <https://vmwaredepot.dell.com/> からインストールすることができます。**

Power CLI の使用

Power CLI を使用して、iDRAC サービスモジュールをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに ESXi の対応 PowerCLI をインストールします。
2. ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>i.zip ファイルを ESXi ホストにコピーします。
3. bin ディレクトリに移動します。
4. Connect-VIServer を実行して、サーバーおよび資格情報を提供します。
5. ESXi 5.5、ESXi 6.0 U1、ESXi 6.0 U2 の対応 vSphere CLI を使用して ESXi ホストにログオンし、データストアを作成します。
6. フォルダ **ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>I** を、ESXi 5.5、ESXi 6.0 U1、ESXi 6.0 U2 ホストの **/vmfs/volumes/<datastore_name>** ディレクトリに作成します。
7. ESXi 5.0 U1 ホスト上の ESXi zip ファイルを **/vmfs/volumes/<datastore_name>ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>I** ディレクトリにコピーします。
8. 上で指定したディレクトリで zip ファイルを解凍します。
9. Power CLI で次のコマンドを実行します。

```
ESXi 5.1 の場合 : Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address>- HostPath /vmfs/volumes/
<datastore_name>name>/ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-
esxi_2.4.0.ESXi510-0000-metadata.zip
```

```
ESXi 5.5 の場合 : Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address>- HostPath /vmfs/volumes/
<datastore_name>name>/ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-
esxi_2.4.0.ESXi550-0000-metadata.zip
```

```
ESXi 6.0 の場合 : Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address>- HostPath /vmfs/volumes/
<datastore_name>name>/ISM-Dell-Web-2.4.0-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-
esxi_2.4.0.ESXi600-0000-metadata.zip
```

10. ESXi ホストを再起動します。
11. esxcli software vib list|grep -i open コマンドを実行して、iDRAC サービスモジュールがホストに正常にインストールされたかどうかを確認します。
12. iDRAC サービスモジュールが表示されます。

 **メモ: Power CLI についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。**

Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、Supplemental Pack を使用して Citrix XenServer にインストールされます。Citrix XenServer 用の Supplemental Pack は次の 2 つの方法でインストールできます。

- ・ [実行中のシステム上](#)
- ・ [インストール中](#)

実行中システムにおける Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール

実行中のシステムに Citrix XenServer 6.x 向け Supplemental Pack をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Supplemental Pack ISO ファイルを CD または DVD にコピーするか、ISO ファイルをサーバーにダウンロードします。ISO ファイルをダウンロードする場合は、次のように一時ディレクトリに ISO ファイルをマウントしてください。

```
$ mount -o loop <iDRACServiceModule4465840100100-supplemental-pack-filename>.iso /mnt
```

ISO ファイルを CD または DVD にコピーした場合は、それを光学ドライブに挿入して次のコマンドを実行します。

```
$ mount /dev/cdrom /mnt
```

2. Supplemental Pack をインストールします。

```
$ cd /mnt
```

```
$ ./install.sh
```

または

```
$ xe-install-supplemental-pack < iDRACServiceModule-supplemental-pack-filename>.iso
```

3. インストールが完了したら、ISO ファイルまたは CD をマウント解除します。

```
$ cd ..
```

```
$ umount /mnt
```

XenServer インストール中における Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール


インストーラは、iDRAC サービスモジュール対応の Citrix XenServer 6.2 SP1、Citrix XenServer 6.5 SP1、および Citrix XenServer 6.5 オペレーティングシステムの 64 ビットバージョンすべてに使用できます。

XenServer のインストール中に Citrix XenServer 6.0 向け Supplemental Pack をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 通常どおりに XenServer のインストールを開始し、画面の指示に従います。
2. XenServer インストールプロセス初期の質問のひとつに Supplemental Pack をインストールするかどうかの質問がありますので、**はい** をクリックしてインストールプロセスを続行します。
3. ベース XenServer イメージのインストール後（システムの処理速度に応じて 5～10 分かかります）に、Supplemental Pack CD を挿入するよう求められます。光学ドライブから XenServer インストール CD を取り出し、Supplemental Pack CD を



挿入して、OK をクリックします。iSM Supplemental Pack was found というメッセージが表示されます。インストールを承認するには、使用 をクリックし、OK をクリックします。

 **メモ:** 複数の **Supplemental Pack** (Citrix の **Linux Supplemental Pack** またはその他の第三者アプリケーション) がある場合は、任意の順にインストールすることもできますが、**Supplemental Pack** を最後にインストールすることをお勧めします。

4. Supplemental Pack のインストールが完了すると (システムの処理速度に応じて 2~5 分かかります)、他の Supplemental Pack をインストールするように求められます。他の Supplemental Pack をインストールしない場合は、省略 をクリックして <Enter> を押します。XenServer が正常にインストールされます。

RPM パッケージのインストール時に、RPM-GPG キーに関する警告メッセージを避けるために、次のようなコマンドを使用してキーをインポートします。

```
rpm --import<OM DVD マウントポイント>SYSMGMT/srvadmin/linux/RPM-GPG-KEY
```

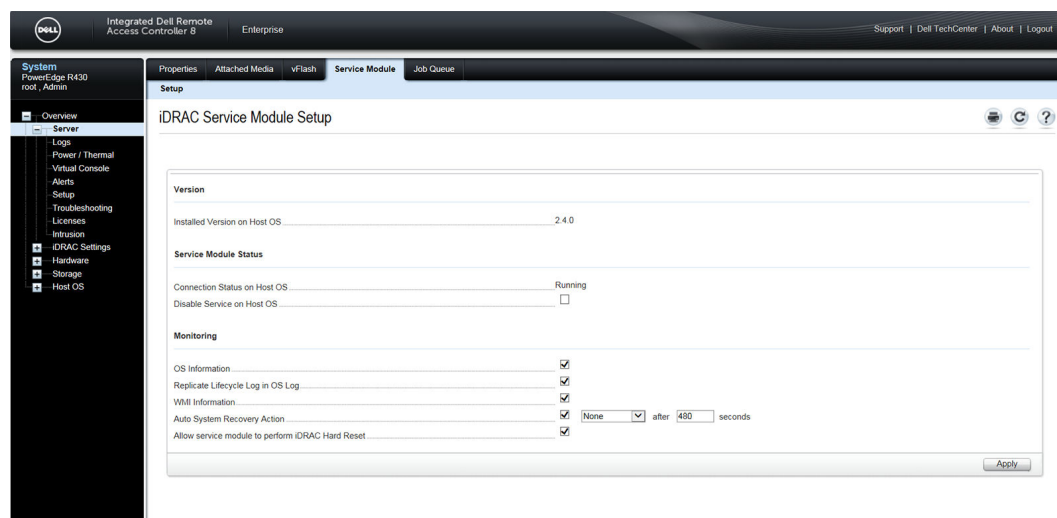
iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールの設定には次を使用することができます。

- ・ [iDRAC ウェブインタフェース](#)
- ・ [RACADM CLI コマンド](#)
- ・ [WSMAN コマンド](#)

iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC ウェブインタフェースから iDRAC サービスモジュールを使用するには、**概要** → **サーバー** → **サービスモジュール** と選択します。



RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュール、RACADM CLI コマンドを使用してアクセスおよび設定することができます。iDRAC サービスモジュールによって提供される機能のステータスを確認するには、`racadm get idrac.servicemodule` コマンドを使用します。このコマンドにより、iDRAC サービスモジュールの機能とその状態が一覧表示されます。

- ・ OS 情報
- ・ LCL レプリケーション
- ・ WMI 情報
- ・ 自動システムリカバリ処置
- ・ ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- ・ iDRAC ハードリセット

機能を設定または構成するには、`racadm set idrac.servicemodule.<機能名><有効または無効>` を使用します。



 **メモ:** リストされた属性または機能の名前の先頭にある # 記号は変更できません。

RACADM から iDRAC サービスモジュールを使用するには、dell.com/support/home で入手できる『RACADM コマンドライン iDRAC 8 および CMC 向けリファレンスガイド』のサービスモジュールグループにあるオブジェクトを参照してください。

WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールは、次のコマンドを使って WSMAN 経由でアクセスおよび設定できます。

iDRAC サービスモジュールを設定するには、次のコマンドを使用します。`winrm i ApplyAttributes http://schemas.dmtf.org/wbem/wscim/1/cim-schema/2/root/dcim/DCIM_iDRACCardService?CreationClassName=DCIM_iDRACCardService+Name=DCIM:iDRACCardService+SystemCreationClassName=DCIM_ComputerSystem+SystemName=DCIM:ComputerSystem -u:root -p:calvin -r:https://<Host IP address>/wsman -SkipCNcheck -SkipCAcheck -encoding:utf-8 -a:basic @{{Target="iDRAC.Embedded.1";AttributeName="AgentLite.1#<feature>";AttributeValue="1"}}`


WSMAN から iDRAC サービスモジュールを使用するには、dell.com/support/home で入手できる、Web services for Management (WS-Man) 管理プロトコルの活用情報と例が記載された『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド』を参照してください。

よくあるお問い合わせ (FAQ)

本項では、iDRAC サービスモジュールに関する FAQ をリストしています。

iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、Open Manage Server Administrator をアンインストールする必要がありますか？


いいえ。iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、Server Administrator の機能が停止していることを確認してください。

 **メモ: Server Administrator** をアンインストールする必要はありません。

システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされていることを確認する方法を教えてください。

iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを確認するには、次の操作を実行します。

- Windows の場合 :
service.msc コマンドを実行します。DSM iDRAC サービスモジュール という名前のサービスがない場合は、サービスのリストから探します。
- Linux の場合 :
/etc/init.d/dcismeng status コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストール済みで実行されている場合は、ステータスが **実行中** となります。

 **メモ: systemctl status dcismeng.service** コマンドの代わりに **init.d** コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが **RedHat Enterprise Linux 7** および **SUSE Linux Enterprise 12** オペレーティングシステムにインストールされているかどうかチェックします。

システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。

システム内の iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認するには、**スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムと機能** をクリックします。インストールされた iDRAC サービスモジュールのバージョンが **バージョンタブ** にリストされます。また、**マイコンピュータ** → **プログラムのアンインストールまたは変更** に移動してバージョンをチェックすることもできます。

iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許可レベルは何ですか？

iDRAC サービスモジュールをインストールするには、管理者レベルの権限を持っている必要があります。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このサーバーはサポートされていません というエラーメッセージが表示されます。対応サーバーの詳細について『**ユーザズガイド**』を参照した後は、どうすればよいですか？

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、iDRAC サービスモジュールのインストール先であるサーバーまたはシステムが第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバーであることを確認してください。また、64 ビットシステムを使用していることも確認します。

USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは OS to iDRAC パススルーチャネルを使用して iDRAC と通信できません というメッセージが **OS ログ** に表示されます。なぜですか？

iDRAC サービスモジュールは、USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーを使用して iDRAC との通信を確立します。時折、正しい IP エンドポイントが設定された USBNIC インタフェース経由でこの通信が確立されないことがありますが、これは、ホスト OS のルーティングテーブルに同じ宛先マスクに対する複数のエントリが含まれており、USBNIC 宛先がルーティング順序の最初にリストされていないときに発生する可能性があります。

表 7. 詳細

Destination (送信先)	ゲートウェイ	Genmask	フラグ	メトリック	参照	使用インタフェース
デフォルト	10.94.148.1	0.0.0.0	UG	1024	0	0 em1
10.94.148.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 enp0s20u12u3

この例では、**enp0s20u12u3** が USBNIC インタフェースであり、リンクローカル宛先マスクが繰り返され、USBNIC が順序の最初になっていません。このため、OS to iDRAC パススルー経由の iDRAC サービスモジュールと iDRAC 間における接続問題が発生する結果となります。接続問題のトラブルシューティングを行うには、次の手順のいずれかを実行することができます。

iDRAC IPv4 アドレス (デフォルトで 169.254.0.1) がホスト OS から到達可能であることを確認します。到達できない場合は、次の手順を実行します。

- 一意の宛先マスクで iDRAC USBNIC アドレスを変更します。
- 不要なエントリをルーティングテーブルから削除し、ホストが iDRAC USBNIC IPv4 アドレスに到達したい時に USBNIC がルートによって選択されるようにします。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラーメッセージが表示されます。

iDRAC サービスモジュールをインストールできるのは、対応オペレーティングシステム上のみです。対応オペレーティングシステムについての情報は、「[対応オペレーティングシステム](#)」を参照してください。

リモート iDRAC ハードリセット機能を使用して iDRAC をリセットしましたが、IPMI ドライバが応答せず、トラブルシューティングできません。

VMware ESXi 5.5 U3 または ESXi 6.0 U1 でリモート iDRAC ハードリセット機能を使用しようとすると、IPMI ドライバが応答しなくなり、そのために iDRAC サービスモジュールの通信が停止されます。この問題を解決するには、サーバーを再起動して、IPMI ドライバを再度ロードする必要がある場合があります。

複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか？

複製された Lifecycle ログを表示するには、次の手順を実行します。

表 8. よくあるお問い合わせ

オペレーティングシステム	場所
Microsoft Windows	イベントビューア → Windows ログ <既存のグループまたはカスタムフォルダ> を選択します。すべての iDRAC サービスモジュール Lifecycle ログは、iDRAC サービスモジュール というソース名の下に複製されています。
Microsoft Windows Nano OS	次の WMI または Windows PowerShell クエリを使用して、複製された LifeCycle ログを表示できます。Get-CimInstance -Namespace root/cimv2 -className win32_NTLogEvent。デフォルトでは、ログは イベントビューア → アプリケーションとサービスログ → ハードウェアイベント で入手できます。
Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux、CentOS、および Citrix XenServer	/var/log/messages
VMware ESXi	/var/log/syslog.log

Linux オペレーティングシステムでアラートを送信するために iDRAC サービスモジュールで設定されているデフォルトの SNMP プロトコルは何ですか？

デフォルトでは、SNMP 多重化プロトコル (SMUX) が iDRAC サービスモジュールでアラートを送信するよう設定されています。

SMUX がシステムでサポートされていません。アラートを送信するためにはどのプロトコルを設定する必要があるのでしょうか？

SMUX がシステムでサポートされていない場合、Agent-x がデフォルトのプロトコルとして使用されます。



Agent-x プロトコルを使用してデフォルトでアラートを送信するように設定するには、iDRAC サービスモジュールをどのように設定しますか？

./Enable-iDRACSNMPTrap.sh 1/agentx -force コマンドを使用して、Agent-x をデフォルトのプロトコルとして設定できます。-force が指定されていない場合は、net-SNMP が設定されていることを確認し、snmpd サービスを再起動します。

Linux のインストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムは何がありますか？

Linux 依存パッケージのリストを確認するには、「[Linux 依存性](#)」を参照してください。

Windows イベント ビューアにカスタムフォルダを作成しましたが、LC ログがカスタムフォルダに複製されていません。ここで LC ログを複製するにはどうすればよいですか？

カスタムフォルダの作成後に Windows イベント ビューア を閉じるようにしてください。その後再度 イベント ビューア を開いて、複製された LC ログを表示してください。

iDRAC サービスモジュールのインストール中に、グラフィカルユーザーインターフェースからカスタムインストールオプションを選択して、ある機能を無効化したのですが、その機能を他のインターフェースから有効化することができません。この機能を再び有効化するにはどうすればよいですか？

Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行するシステムでは、インストーラを使用して有効化され、そのインストーラ以外のインターフェースを使用して無効化された機能を有効化することができるのは、同じインターフェース、またはグラフィカルユーザーインターフェースモードのインストーラのみです。


例えば、iDRAC サービスモジュールのインストール中にグラフィカルユーザーインターフェースから無効化された機能は、RACADM CLI コマンドを使用しても有効化できない場合があります。

Linux インストーラパッケージ

対応 Linux OS のインストーラパッケージは次の通りです。

表 9. Linux インストーラパッケージ

対応 Linux オペレーティングシステム	インストーラパッケージ
Red Hat Enterprise Linux 6	SYSMGMT\iSM\linux\RHEL6\x86_64\dcism-2.4.0- <bldno>.el6.x86_64.rpm
Red Hat Enterprise Linux 7	SYSMGMT\iSM\linux\RHEL7\x86_64\dcism-2.4.0- <bldno>.el7.x86_64.rpm
SUSE Linux Enterprise Server 11	SYSMGMT\iSM\linux\SLES11\x86_64\dcism-2.4.0- <bldno>.sles11.x86_64.rpm
SUSE Linux Enterprise Server 12	SYSMGMT\iSM\linux\SLES12\x86_64\dcism-2.4.0- <bldno>.sles12.x86_64.rpm

 **メモ:** CentOS バージョン 6.5、7.0、7.1 または 7.3 オペレーティングシステムへの iDRAC サービスモジュールのインストールには、リストにある任意のインストーラパッケージを使用することができます。